

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年2月14日

【四半期会計期間】 第67期 第3四半期
(自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)

【会社名】 株式会社スズケン

【英訳名】 SUZUKEN CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 太田 裕史

【本店の所在の場所】 名古屋市東区東片端町8番地

【電話番号】 052(961)2331(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長 鷲見 守

【最寄りの連絡場所】 名古屋市東区東片端町8番地

【電話番号】 052(961)2331(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長 鷲見 守

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

証券会員制法人札幌証券取引所
(札幌市中央区南一条西五丁目14番地の1)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第66期 第3四半期 連結累計期間	第67期 第3四半期 連結累計期間	第66期
会計期間		自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高	(百万円)	1,406,061	1,429,550	1,859,917
経常利益	(百万円)	15,595	17,676	23,122
四半期(当期)純利益	(百万円)	8,188	6,752	8,050
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	8,177	8,722	9,947
純資産額	(百万円)	287,991	293,912	289,759
総資産額	(百万円)	1,029,183	1,020,543	972,076
1株当たり四半期(当期) 純利益	(円)	90.83	74.91	89.30
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	28.0	28.8	29.8

回次		第66期 第3四半期 連結会計期間	第67期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益	(円)	54.45	63.62

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社及び連結子会社が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災の復興需要を背景として緩やかに回復しつつあり、12月には新政権への期待感から為替相場は円安傾向となったものの、原油価格の高騰や電力供給不足の懸念など、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

医療用医薬品市場は、平成24年4月に実施された薬価基準の引下げ（長期収載品の追加引下げを含む平均6.25%）の影響があるものの、高齢化の進展に伴う生活習慣病関連薬剤や新薬等の寄与により、緩やかながら伸長したものと推測しております。しかしながら、お得意さまニーズの多様化・高度化への対応など、医薬品卸を取り巻く経営環境は厳しい状況にあります。

このような状況下、当社グループはあらゆる構造改革を推進しております。喫緊の課題は「コスト構造改革」であると考え、当社及び当社子会社2社（㈱スズケンロジコム、秋山物流サービス㈱）において、平成24年9月30日を退職日とする希望退職者の募集を行いました。694名の応募に伴う特別一時金等の発生により、特別損失として49億84百万円を計上いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は1兆4,295億50百万円（前年同期比1.7%増）、営業利益は52億53百万円（前年同期比44.5%増）、経常利益は176億76百万円（前年同期比13.3%増）、四半期純利益は67億52百万円（前年同期比17.5%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

医薬品卸売事業

「医療用医薬品の流通改善に関する懇談会」による「緊急提言」を受け、引続き業界をあげて流通改善に取り組んでおります。日本医薬品卸業連合会は、流通改善を実現するために、契約条件の事前明示と覚書締結による確認、単品単価取引の励行の推進等を声明として発表しております。

当社グループにおきましても、日本医薬品卸業連合会の取組方針に基づき、個々のお得意さまごとに単品単価取引を原則とし、個々の医療用医薬品の価値に見合った価格交渉に努めております。また、多様化・高度化するお得意さまニーズに対応するため、L S（Logistics Sales：主に保険薬局を専門に担当する営業担当者）を本格導入するなど構造改革を実践し、強い物流機能の確立とお得意さまに提供するサービスの最適化に取り組んでおります。

売上高につきましては、市場が伸長したことに加え、個々のお得意さまのニーズにお応えする活動を徹底したこともあり、堅調に推移いたしました。利益につきましては、適正な利益の確保に向けた取組みを強化したことにより一定の改善はみられたものの、依然として厳しい状況となりました。

この結果、売上高は1兆3,598億41百万円（前年同期比1.4%増）、営業損失は87百万円（前年同期は48億74百万円の営業損失）となりました。なお、現時点における販売価格の未決定先につきましては、合理的見積価額としております。

医薬品製造事業

主力製品である糖尿病食後過血糖改善剤「セイブル錠」の売上高は、5億47百万円増の140億75百万円（前年同期比4.0%増）となりました。また、興和㈱と共同開発してきました2型糖尿病治療剤であるD P P - 4阻害剤「スイニー錠100mg（一般名：アナグリプチン）」は、平成24年9月に製造販売承認を取得し、平成24年11月30日に販売を開始いたしました。販売費及び一般管理費は、「セイブル錠」の業務委託費や「スイニー錠100mg」の発売に伴う販売促進費の増加、高尿酸血症・痛風治療薬「F X Y - 051（一般名：トピロキサタット）」の製造販売承認申請に伴うライセンス料の支払等により増加いたしました。

この結果、売上高は516億46百万円（前年同期比1.9%増）、営業利益は28億17百万円（前年同期比36.8%減）となりました。

保険薬局事業

管理業務の集約化や在庫管理の強化を実施し業務の効率化に努めてまいりましたが、6年制教育課程導入のため3年ぶりとなる新卒薬剤師の採用も含めた薬剤師の確保により、販売費及び一般管理費は増加いたしました。

この結果、売上高は580億24百万円（前年同期比2.5%増）、営業利益は23億12百万円（前年同期比27.6%減）となりました。

医療関連サービス等事業

主に、中国地方で介護事業を営むサンキ・ウエルピィ㈱において、グループホームや小規模多機能センターで利用者が増加いたしました。また、さらなる地域密着サービスの強化に向けて、介護従事者の確保や新規開設に取り組んでまいりました。

この結果、売上高は189億28百万円（前年同期比11.3%増）、営業利益は4億21百万円（前年同期比45.1%減）となりました。

（注）セグメントの売上高にはセグメント間の内部売上高を含んでおります。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における資産、負債及び純資産の状況は次のとおりであります。

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ484億66百万円増加し、1兆205億43百万円となりました。主な要因は、以下のとおりであります。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ502億10百万円増加いたしました。これは主に有価証券の取得等により現金及び預金が152億43百万円減少したものの、有価証券が375億5百万円、受取手形及び売掛金が157億80百万円並びに商品及び製品が120億61百万円それぞれ増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ17億43百万円減少いたしました。これは主に㈱サンキの岡山物流センターの建設（平成24年11月稼働）やBCP（事業継続計画）の再構築等により有形固定資産が4億75百万円、保有株式の株価上昇等により投資その他の資産が5億25百万円それぞれ増加したものの、ソフトウェアの減価償却等により無形固定資産が27億45百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ443億13百万円増加し、7,266億30百万円となりました。これは主に法人税等の支払により未払法人税等が33億92百万円、賞与の支払により賞与引当金が35億4百万円それぞれ減少したものの、直近の仕入高の増加等により支払手形及び買掛金が503億13百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ41億53百万円増加し、2,939億12百万円となりました。これは主に剰余金の配当により45億7百万円減少したものの、四半期純利益67億52百万円の計上及び保有株式の株価上昇によりその他有価証券評価差額金が23億34百万円増加したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、43億59百万円であります。

また、当第3四半期連結累計期間における研究開発活動の状況の変更内容は、次のとおりであります。

医薬品製造事業の㈱三和化学研究所と興和㈱は、㈱三和化学研究所が創製し、両社で共同開発してきました2型糖尿病治療剤であるDPP-4阻害剤「スイニー錠100mg」（一般名：アナグリプチン）について、平成24年11月30日に販売を開始いたしました。

(5) 主要な設備

主要な設備の状況

医薬品卸売事業の㈱サンキの岡山物流センターは、平成24年11月に稼働しております。

設備の新設の計画

医薬品卸売事業の当社は、名南物流センター（仮称）の用地として、愛知県大府市共和町地内において約33,960平方メートルの土地を取得いたします。取得金額は22億81百万円であり、必要資金は、自己資金で賄います。

なお、新たに確定した重要な設備の拡充、改修、除去、売却等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	374,000,000
計	374,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	93,949,167	93,949,167	東京証券取引所 (市場第一部) 名古屋証券取引所 (市場第一部) 札幌証券取引所	単元株式数は 100株であります。
計	93,949,167	93,949,167		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日		93,949		13,546		33,836

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成24年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,804,200		単元株式数は100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 89,963,100	899,631	同上
単元未満株式	普通株式 181,867		
発行済株式総数	93,949,167		
総株主の議決権		899,631	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,300株及び議決権の数13個が含まれております。また、「単元未満株式」の欄には、同機構名義の株式9株が含まれております。

2 「単元未満株式」には、当社所有の自己株式48株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社スズケン	名古屋市東区 東片端町8番地	3,804,200		3,804,200	4.04
計		3,804,200		3,804,200	4.04

2 【役員状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	119,389	104,146
受取手形及び売掛金	4 448,739	4 464,519
有価証券	5,791	43,296
商品及び製品	122,203	134,264
仕掛品	4,785	3,697
原材料及び貯蔵品	1,899	1,952
その他	37,655	38,458
貸倒引当金	3,084	2,744
流動資産合計	737,379	787,590
固定資産		
有形固定資産	106,713	107,189
無形固定資産		
のれん	2 955	2 594
その他	26,246	23,861
無形固定資産合計	27,201	24,455
投資その他の資産	3 100,782	3 101,308
固定資産合計	234,696	232,953
資産合計	972,076	1,020,543

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4 635,153	4 685,466
短期借入金	587	537
未払法人税等	6,536	3,144
返品調整引当金	431	432
賞与引当金	7,746	4,241
その他	13,422	13,288
流動負債合計	663,878	707,110
固定負債		
長期借入金	462	375
退職給付引当金	4,401	4,231
役員退職慰労引当金	599	542
その他	12,974	14,369
固定負債合計	18,438	19,520
負債合計	682,317	726,630
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,546	13,546
資本剰余金	38,897	38,897
利益剰余金	248,446	250,627
自己株式	12,064	12,066
株主資本合計	288,825	291,004
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,684	9,018
土地再評価差額金	6,001	6,001
為替換算調整勘定	1	383
その他の包括利益累計額合計	681	2,634
少数株主持分	252	274
純資産合計	289,759	293,912
負債純資産合計	972,076	1,020,543

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	1,406,061	1,429,550
売上原価	1,282,043	1,301,167
売上総利益	124,018	128,383
返品調整引当金戻入額	448	431
返品調整引当金繰入額	452	432
差引売上総利益	124,014	128,382
販売費及び一般管理費	120,379	123,128
営業利益	3,635	5,253
営業外収益		
受取利息	536	520
受取配当金	1,020	1,203
仕入割引	5,336	5,842
受入情報収入	3,615	3,723
その他	1,798	1,436
営業外収益合計	12,307	12,725
営業外費用		
支払利息	36	17
不動産賃貸費用	175	182
その他	136	102
営業外費用合計	348	303
経常利益	15,595	17,676
特別利益		
固定資産売却益	50	9
投資有価証券売却益	252	17
罹災商品補償額	682	-
補助金収入	32	13
その他	349	12
特別利益合計	1,368	53
特別損失		
固定資産除売却損	811	413
減損損失	137	24
災害損失	109	-
投資有価証券評価損	2,222	30
特別退職金	4	4,984
その他	98	17
特別損失合計	3,383	5,469
税金等調整前四半期純利益	13,579	12,260
法人税等	5,369	5,490
少数株主損益調整前四半期純利益	8,210	6,769
少数株主利益	21	16
四半期純利益	8,188	6,752

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	8,210	6,769
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	288	2,334
土地再評価差額金	259	-
為替換算調整勘定	4	0
持分法適用会社に対する持分相当額	-	381
その他の包括利益合計	33	1,952
四半期包括利益	8,177	8,722
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,156	8,705
少数株主に係る四半期包括利益	20	16

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

(持分法適用の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間より、関連会社である上海鈴謙滬中医薬有限公司は重要性が増したため、持分法適用の範囲に含めております。

【会計方針の変更等】

(減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

次の債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
取引先(金融機関借入債務)	26百万円	24百万円

2 のれん及び負ののれんの表示

のれん及び負ののれんは相殺し、無形固定資産の「のれん」として表示しております。相殺前の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
のれん	1,810百万円	1,216百万円
負ののれん	854	621
差引	955	594

3 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
投資その他の資産	964百万円	867百万円

4 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
受取手形	1,157百万円	1,023百万円
支払手形	453	403

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額及び負ののれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
減価償却費	7,706百万円	9,048百万円
のれんの償却額	1,094	712
負ののれんの償却額	236	233

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月9日 取締役会	普通株式	2,794	31.00	平成23年3月31日	平成23年6月7日	利益剰余金
平成23年11月4日 取締役会	普通株式	2,253	25.00	平成23年9月30日	平成23年12月8日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月9日 取締役会	普通株式	2,253	25.00	平成24年3月31日	平成24年6月6日	利益剰余金
平成24年11月6日 取締役会	普通株式	2,253	25.00	平成24年9月30日	平成24年12月10日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計
	医薬品 卸売事業	医薬品 製造事業	保険薬局 事業	医療関連 サービス等 事業	
売上高					
外部顧客への売上高	1,320,117	16,087	56,612	13,244	1,406,061
セグメント間の内部売上高 又は振替高	20,519	34,612	1	3,756	58,889
計	1,340,637	50,699	56,613	17,001	1,464,951
セグメント利益又は損失()	4,874	4,458	3,196	767	3,548

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,548
セグメント間取引消去	86
四半期連結損益計算書の営業利益	3,635

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計
	医薬品 卸売事業	医薬品 製造事業	保険薬局 事業	医療関連 サービス等 事業	
売上高					
外部顧客への売上高	1,337,573	19,478	58,022	14,475	1,429,550
セグメント間の内部売上高 又は振替高	22,268	32,167	2	4,452	58,891
計	1,359,841	51,646	58,024	18,928	1,488,441
セグメント利益又は損失()	87	2,817	2,312	421	5,463

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
 主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,463
セグメント間取引消去	210
四半期連結損益計算書の営業利益	5,253

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益	90円83銭	74円91銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(百万円)	8,188	6,752
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	8,188	6,752
普通株式の期中平均株式数(千株)	90,150	90,145

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成24年11月6日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額..... 2,253百万円

1株当たりの金額.....25円00銭

支払請求権の効力発生日及び支払開始日.....平成24年12月10日

(注) 平成24年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し支払を行いました。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月8日

株式会社スズケン
取締役会御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 平野善得
--------------------	------------

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 服部一利
--------------------	------------

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 加藤克彦
--------------------	------------

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社スズケンの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社スズケン及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。